

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
龍馬看護ふくし専門学校		平成8年3月19日		野町 裕		〒780-0056 高知県高知市北本町1-5-3 (電話) 088-825-1800			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人龍馬学園		平成1年3月23日		理事長 佐竹 新市		〒 780-0056 (住所) 高知市 北本町 1-12-6 (電話) 088-825-0077			
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程	子ども未来学科		平成27(2015)年度	-	平成29(2017)年度			
学科の目的	子ども未来学科では、保育に関する専門知識を学びながら、保育所・幼稚園・社会福祉施設等の実習を通して実践的技量を身に付け、即戦力となる人材として、子どもから慕われる質の高い保育士(幼稚園教諭)を養成する。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	保育士資格、幼稚園教諭二種免許、社会福祉士主任任用資格								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,055 単位時間 単位		915 単位時間 単位	390 単位時間 単位	450 単位時間 単位	0 単位時間 単位	300 単位時間 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)					
80人	67人	0人		0%					
就職等の状況	■卒業者数(C)		24人						
	■就職希望者数(D)		22人						
	■就職者数(E)		22人						
	■地元就職者数(F)		20人						
	■就職率(E/D)		100%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		91%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		92%						
	■進学者数		0人						
	■その他								
	(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 保育所 福祉施設 認定こども園									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載				0				
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.ryoma.ac.jp/rnw/course/childwelfare.html								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数				2,055 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				360 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数				10 単位時間					
うち必修授業時数				1,950 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				360 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				10 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間					
(B: 単位数による算定)									
総授業時数				単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数				単位					
うち必修授業時数				単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				5人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1人				
	計				6人				
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				5人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

子ども未来学科では、新しく変化している社会状況の中で、保育所・幼稚園・社会福祉施設等の実習を通して、現場に適應できる専門知識を持ち、時代に即した実践的技量を発揮して、子どもの福祉と教育に携わることのできる質の高い保育士・幼稚園教諭を養成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

別添「龍馬看護ふくし専門学校組織規程」のとおり、教育課程編成委員会(以下「委員会」という。)は、校長直轄の組織として設置しており、カリキュラム改善に対する意見を企業等の役職者及び有識者から聴取し、これを基に、校長以下、各学科の担当者でカリキュラムの改善策について検討し、次年度に向け改善を図っていくこととしている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
野町 裕	龍馬看護ふくし専門学校 校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
片岡 幸恵	龍馬看護ふくし専門学校 副校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
野島 麻美	龍馬看護ふくし専門学校 教務課長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
美崎 有紀	幼保連携型認定こども園 桜井幼稚園 園長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
高野 隆司	地域活動支援センター「香美」「南国」 管理者	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

2回/年 9月と2月

(開催日時(実績))

令和4年9月29日

令和5年2月22日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

コロナ禍、実習機関・場所を確保するのも厳しい状況にあった。体験することで味わう挫折感など、負の気持ちを自分で奮い立たせ立ち直ろうとする遅さなど、身につけることが出来ずにいるため内面の弱さが心配されるまた、デジタルの知識ばかりで、心が伴って行っていないようにも感じられるということから、一人一人の気持ちの変化を見逃さず、認めたり共感しながら、心の遅さを培えるよう勉強を深め努力していきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

保育(教育)方針に基づいた保育(教育)活動に触れることで、保育所(幼稚園)の実情を把握し、乳幼児に関する理解を深め保育者に必要な基礎力を付けさせる。また、学校で学んできた知識・理論を実際の保育現場で実践することにより実践を通して指導技術を身に付け、保育士(幼稚園教諭)としての使命感と資質を高める。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

保育活動の理解を目的とし、保育活動の展開、乳幼児の実態、保育士の職務や役割を学ばせるために:見学実習:観察実習:参加実習:部分実習:全日実習を体験させる。また、計画を立てて研究保育も実施させ指導技術力を身に付けさせる。

また、実習巡回指導時における企業の方の意見を、学生に伝えるとともに指導・改善を促し、実習・演習終了後は反省会を持っていただき、次へつなげている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
保育実習Ⅰ①	授業で学習してきた保育の理論や技術を基にして、実際に保育の現場に出て保育を経験することによって、それらが保育の実践と具体的にどのようにつながるかを体験し、保育技術の体得・向上自分なりの保育観を確立していくために行う。	市)愛善保育園 市)さえんば保育園 愛育会保育園 南街保育園 城南保育園 他20園
保育実習Ⅰ②	施設実習は、その習得した科目全体の知識・技能を基礎としこれらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童(利用者)に対する直接的な働きかけを通じて、保育の理論と実践の関係について習熟することを目的としている。	おおなる園 子供の家 南海少年寮 博愛園 高知聖園天使園 (他9園)
教育実習	幼児や教師たちと生活を共にすることで、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、同時に教師の仕事について具体的に理解することを目的とする。	くるみ幼稚園 桜井幼稚園 もみの木幼稚園 みさと幼稚園 清和幼稚園(他13園)
保育実習Ⅱ	授業で学習してきた保育の理論や技術を基にして、実際に保育の現場に出て保育を経験することによって、それらが保育の実践と具体的にどのようにつながるかを体験し、保育技術の体得・向上自分なりの保育観を確立していくために行う。	あざみの保育園 ふくし園 あざみの保育園 横浜保育園 潮江第二保育園(他20園)
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 現在もしくは将来就く職務の遂行に必要な知識・技能を修得させ、能力及び資質などの向上を図ることを目的とした研修をさせる。 研修の種類: 新任者研修 管理職研修 各専門分野別養成研修		
(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等 令和3年10月高知市民営保育所協議会 園長会・懇談会		
② 指導力の修得・向上のための研修等 開催日: 令和4年12月26日(月) 場所: 国際デザイン・ビューティカレッジ4階ガウディホール 講師: 福岡大学人文学部教授 植上一希氏 テーマ: 専門学校の現代的意義について		
(3) 研修等の計画 ① 専攻分野における実務に関する研修等		
② 指導力の修得・向上のための研修等 開催日: 令和5年12月25日(月) 「人が育つ」ファシリテーション技術 ファシリテーションに関するスキルの向上を目的とした教員研修		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

龍馬学園ミッションである「高度な職業教育を通して、専門知識と人間性豊かな地域・国家・国際社会に貢献する人材を育成する」という教育理念のもと、本校教育指針(別添参考Ⅰ)、さらに各学科の学習指導方針(別添参考Ⅱ)を立て、その具体化に向け取り組んでいく。

その取り組みの中で、教育水準の向上を図り、設立精神の目的及び社会的使命を達成するため、本校の教育活動の状況について、自ら点検及び評価を行うとともに、企業等にも学校関係者として評価に参画してもらい、その評価結果を教育活動その他の学校運営の改善等に生かしていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2) 学校運営	管理運営
(3) 教育活動	教育の内容
(4) 学修成果	教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	学生支援
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	改革・改善
(10) 社会貢献・地域貢献	社会的活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学外実習時における安全対策マニュアルを作成し、学生に周知していく。
ボランティア活動への参加を促しコミュニケーション力を高め、人とのかわりを体験しながら体得していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年9月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
弘嶋 謙二	特定非営利活動法人 児童・障がい児(者)相談支援ネットワーク高知 理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	有識者
西森 康夫	にしもり薬局 代表取締役	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	企業関係者
山中 美智子	愛宕病院 看護部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	関係施設の役職員
前田 理佐	学校法人やまもも学園 芸術学園 園長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	関係施設の役職員
明神 聡	医療法人臼井会田野病院業務推進部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生
美崎 有紀	幼保連携型認定こども園 桜井幼稚園 園長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	関係施設の役職員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <https://www.ryoma.ac.jp/disclosures/index.html> 公表時期: 令和5年11月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と密接かつ組織的連携体制を確保し、より質の高い教育を学生に提供することを目的として、企業等の学校関係者に対して、学校の教育活動、その他学校運営の状況に関する情報を積極的に提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学園概要、学校紹介、校訓(校長挨拶)
(2)各学科等の教育	学科紹介・概要(目指す仕事・目標資格・年間スケジュール等)
(3)教職員	教員名簿
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職指導、就職サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ、施設・設備
(6)学生の生活支援	龍馬学園奨学金、さくら奨学金、学園指定・推薦ワンルームマンション
(7)学生納付金・修学支援	入学金・学費、学費サポート(特待生制度・各種奨学金制度)
(8)学校の財務	財務情報の公開に関する取扱要領
(9)学校評価	自己点検評価結果・学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.ryoma.ac.jp/disclosures/index.html>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程子ども未来学科) 令和4年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			英会話 I	保育士の英語：自分の英会話能力に自信を持つ授業で色々なトピックを使って英会話を練習します。トピックによってアクティビティやゲームや小プレゼンテーションをします。英会話を練習しながら、発音、英文法、単語、リスニング、コミュニケーション対策も勉強し、英会話を実践することができるようになります。	1前	30	2	△	○		○			○	
○			健康科学	スポーツの意義や現代的課題について、知識・関心を深め健康と運動の関わりについて学ぶ。	1後	15	1	○			○				○
○			生涯スポーツ	卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボールなどの基本的技能を身に付ける。練習やゲームを通して、お互いに協力し、新しい人間関係を作る。生涯にわたってスポーツを楽しむ能力を身につける。	1前	30	1		○			○			○
○			情報処理入門 I	Word、Excel、PowerPointの基本操作を学習し、社会に出て十分にパソコンが利用できる情報リテラシー能力を養成する。 ネットワーク社会におけるコンピューター、通信技術の仕組みやさまざまな社会問題を理解し、正しい知識を身に付ける。	1前	30	2	△	○		○				○
○			日本国憲法	①憲法の理念、目的を理解する。 ②日本国憲法の基本原理（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義） ③日本国憲法の前文、各章・条をとおして憲法の内容を理解する。	1前	30	2	○			○				○
○			幼児と音楽表現	・基礎的な楽典、ソルフェージュの学習で読譜力を養い実技を通してピアノ演奏法の基本を学び簡単な弾き歌いを習得する。 正しい音程で歌うことができる ・歌唱技術の習得と共に、美しい日本語で歌い表現をする ・幼児教育現場で必要な幼児歌曲のレパートリーを広げる	1後	15	1		○		○				○
○			教育心理学	本講義では、乳幼児期の発達と学習の特徴について、基本的かつ現場で必要となる内容を理解していく。子ども達が充実感をもって安心して楽しく生活し、遊びを通して主体的に学ぶためには、保育者はどのような援助が可能であるのか。教育心理学の知見を活かしてほしい。	1前	15	1		○		○				○
○			幼児の心理学	教育という場で生じる種々の要因と心への影響を概観していく。幼児期を中心に人間の発達とその特徴についてより詳しくゆく。	1前	15	1	○			○				○
○			幼児と言葉	・人間にとっての話し言葉や書き言葉などの『言葉』の意義と機能について理解する。 ・言葉の発達について発達段階に沿って学び、保育者としての関わり方を知る。 ・保育における絵本の役割について学び、絵本の選び方、読み方の技術を身につける。	1前	15	1	○			○				○
○			幼児と人間関係	領域『人間関係』より子どもを取り巻く人間関係の現状を把握し、支援が必要なポイントを把握する。また、発達過程に応じた人との関わりについて考え、子どもの成長と向き合う。	1前	15	1	○			○			○	
○			幼児と環境	環境は、多面的であること、理解を深める。環境が人々（子どもを主体に）の暮らしや心のセラピーと深く結びついていることを学ぶ。人々（子どもを主体に）の健康と関連した環境問題や公害問題をより深く理解できる。自分自身（子どもの目を主体に）が解決できる環境問題や疑問についてを模索し、実行する。	1前	15	1	○			○				○

○			ベーシック・コミュニケーション・親学	・社会人として求められる基本的なマナーとコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。 ・近年顕著である少子化や核家族化によって親子関係が大きく変化し、親子の密着や過干渉、また逆に育児放棄などが深刻な問題となって現れています。「親学」はこうした問題にも対応し、学んだ人が「親学」を実践し、自らの成長を、子どもに、学校に、地域にと照射していくことによって、社会をよりよい方向へ変えていくことも目指しています。	1通	30	2	△	○	○	○							
○			保育内容総論	・保育所保育指針における保育内容を理解するとともに保育の全体的な構造を理解する。 ・養護と教育が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。 ・保育の多様な展開について具体的に学ぶ。	1後	15	1	○		○	○							
○			児童文化	児童文化の概念を理解し、子どもたちが自ら文化をつくり出す基盤として欠かすことのできない言葉と、その言葉をもとに表現する力の大切さを重視してどのようにすれば育むことができるのか考える。	1前	30	2	○	△	○	○							
○			レッスン I	音楽（器楽・声楽）での課題及び実習で使用する曲のピアノ及び弾き歌いの技術習得のためのレッスンを行う。	1通	60	2			○	○							
○			保育研究	乳幼児期の成長過程や生活に即した「遊び」と「活動」の体験実践を通し、保育現場に生かせる知識や技術、豊かな感性を身に付ける。	1前	30	1			○	○							
○			音楽レッスン I（ピアノ）	ピアノ音楽の基礎技術を学習し、実技を通して習得する。	1通	30	1			○	○							○
○			音楽レッスン I（声楽）	正しい音程で歌を歌うことができる・歌唱技術の習得と共に、きれいな日本語で歌い表現をする ・幼児教育現場で必要な幼児歌曲のレパートリーを広げる	1通	30	1			○	○							
○			乳児保育 I	・乳児保育の歴史の変遷を知り、乳児の育つ環境の大切さ、乳児保育の果たす大切さを知る。 ・保育士としての必要な乳児保育の基本的知識を獲得する。 ・乳児期の心身の発達特徴を理解する。 ・演習を通して乳児の適切な援助方法、必要な道具の使い方等を修得する。	1前	30	2	○	△	○								○
○			社会的養護 I	社会的養護を必要とする子どもの現状を援助を通して、社会的養護の意義と保育者としての役割について理解する。	1前	30	2	○		○	○							
○			保育実習指導 I（保育所）	保育実習について理解をし、実習における心構えや日誌の書き方、指導案の立て方などを学ぶ。実習後には振り返りをし、それぞれの成果・課題を見つけ次へつなげていけるようにする。	1後	30	2	○		○	○							
○			保育実習 I（保育所）	授業で学習してきた保育の理論や技術を基にして、実際に保育の現場に出て保育を経験することによって、それらが保育の実践と具体的にどのようなつながるかを体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を確立していくために行う。	1後	90	2			○	○	○	○	○	○			
○			音楽表現技術	・ピアノ演奏技術の向上を目指し弾き歌いのレパートリーを増やし楽しく歌い示す。 ・正しい音程で歌うことができる・歌唱技術の習得と共に、美しい日本語で歌い表現をする ・幼児教育現場で必要な幼児歌曲のレパートリーを広げる	2前	15	1			○	○							
○			幼児と造形表現	保育園・幼稚園での年間行事に関心を持たせると共に、教育領域に示された「表現」のねらい及び内容について、背景となる造形表現と関連させて理解を深める。	2前	15	1			○	○							

○		幼児と健康	運動遊びの特性とその展開について学習し、効果的な保育技術・教材づくりに関する知識の習得を目指す。	2後	15	1	○			○			○
○		図画工作Ⅱ	2年生では、「何もないところから互いに話し合って協力し、一つのものを創り上げる」共同制作を通じて、さらにコミュニケーション能力を育む。また、実際の現場で様々な作品に触れることで幅広い鑑賞能力を培う。	2前	45	1			○		○		○
○		子ども家庭福祉	児童や家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について学習するとともに、各種児童福祉施設の役割・機能及び児童・家庭福祉に関連する法制度等について理解を深める。	2前	30	2	○			○			○
○		保育原理	保育の対象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などの概観を通して、保育に関する基礎的な知識を培うこと。そして保育が直面している現実的・今日的で切実な課題にあたることにより、各人が課題意識を持って問題を掘り下げ、保育の本質を探究し、保育に対する自分なりの見解を持つことを目的とする。	2前	30	2	○			○			○
○		幼児体育Ⅱ	乳幼児期の運動発達を具体的に捉え、幼児期の「基本的運動」を中心とした運動経験の重要性について理解を深める。さらに運動遊びの特性とその展開について学習し、効果的な保育技術、教材づくりに関する知識の習得を目指す。	2前	15	1	○			○			○
○		子ども家庭支援論	1. 保育所のもつ子育て支援を重要な社会的役割として理解する。 2. 家族の変容と子どもを取り巻く社会環境をみつめ、適切な相談、助言のあり方を学ぶ。 3. ニーズに応じた支援対策と援助活動及び関係機関との連携について理解する。	2前	30	2	○			○			○
○		障害児保育	①各障害についての理解をふまえ、現場での具体的な支援や保育の方法について考える ②(児童)虐待の現状と発生にいたる背景について考える	2前	15	1			○		○		○
○		幼児への特別な支援	①障害についての概要の理解をふまえて、障害児保育の理念とその方法について理解する。 ②障害のある子どものかかわる現状と課題を理解するとともに、関係機関や施設などの社会資源について学び、障害のある子ども本人やその家族を支援するための連携について学ぶ。	2前	15	1	○			○			○
○		子どもの食と栄養	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 子どもの成長段階における食生活について理解する。 3. 習得した理論を演習を通して実践に結びつけられるようにする。	2前	30	2	△			○			○
○		子どもの保健	子どもの特徴は、絶えず成長・発達していること。その内容をきちんと理解でき、子ども達を観察し、見守ることができ、自分が保育士になった時何が出来るか具体的に実行でき、自覚と責任を持った保育士を養成していく。	2前	30	2	○			○			○
○		保育の心理学	保育を実践する上で発達とは何か、その基本的な事項、発達の様相についての理解を深めるとともに、各発達期の特徴や課題、発達援助のあり方について理解する	2前	30	2	○			○			○
○		子ども家庭支援の心理学	・人間の生涯発達及び、乳幼児期の初期経験の重要性を理解する。 ・子どもの精神保健と現状及び、子ども家庭福祉に要する心理学的知識や家庭の意義と機能・子育てを取り巻く社会状況を理解する。	2前	30	2	○			○			○

○		教育実習	幼児や教師たちと生活を共にすることで、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、同時に教師の仕事について具体的に理解することを目的とする。	2後	180	4				○		○	○	○	
○		教育相談	幼児・児童は、一生の中でも、もっとも急速に成長発達をする時期にある。この時期は、子どもだけでなくその保護者にとってもストレスを感じながらの生活となる。それに加えて急激な社会や環境の変化が子ども達に及ぼす影響は相当なものだと想像される。この大人と子ども両者の精神的負担に対して以前は同居する年寄りや地域が与えていた「安らぎ」を、現代では教育現場にも求められるようになってきた。つまり、教育現場の教師達は多くの課題を抱えながら子どもや保護者達のために「安らぎ」の機能を発揮してやれるかについて学んでもらいたい。	2前	30	2	○			○				○	
○		保育・教職実践演習	これまでの学習と実習成果を振り返りながら、保育士、幼稚園教諭に求められる資質と能力の確認をする。	2前	30	2	△	○		○			○		
○		教育実習事前事後指導	教育実習が円滑かつ有意義に行えるよう、実習に関わる基礎的な知識の理解を深める。①幼児期の発達段階 ②幼稚園の機能と役割 ③幼稚園教諭の職務と役割 ④観察記録の作成方法 ⑤指導計画の立案方法	1後	15	1		○		○			○		
○		パソコン演習	パソコンの基本操作、ワープロソフトWord、表計算ソフトExcel、プレゼンテーションソフトPowerPointの基礎を学び、基本操作を習得する。	2通	30	2		○		○				○	
○		社会的養護Ⅱ	児童福祉施設で生活する子どもの事例を通じて、子どもの理解を深めるとともに社会的養護の果たしている役割を理解する。児童福祉施設の子どもの生活と保育士の仕事と役割について学ぶ。	2後	15	1	○			○			○		
○		子育て支援	事例学習により、子育て支援・社会福祉援助活動について具体的に理解してもらう。そのうえで、援助プロセスで必要とされる知識・技術を習得してもらう。	2後	15	1	○			○				○	
○		子どもの健康と安全	子どもの事故防止及び安全対策について学び、病気や事故を未然に防ぐ能力を高める。また、体調不良や傷害が発生した場合、適切に対応できる能力を身につける	2後	15	1	○	△		○				○	
○		青年心理学	青年期の発達課題を学び、発達の連続性を見通して支援を行える知識と態度を獲得する。自己理解と受容を深め、対人援助者としての資質向上を目指す。	2通	30	2	○			○				○	
○		レッスンⅡ	音楽（器楽・声楽）での課題及び実習で使用する曲のピアノ及び弾き歌いの技術習得のためのレッスンを行う。	2通	30	1				○	○			○	
○		音楽レッスンⅡ（ピアノ）	1年次での基礎技術習得から更に音楽表現への向上。簡易伴奏でもしっかり弾き歌いができる。	2通	30	1				○	○			○	
○		音楽レッスンⅡ（声楽）	・歌唱技術の習得と共に、きれいな日本語で歌い表現をする ・幼児教育現場で必要な幼児歌曲のレパートリーを広げる	2通	30	1				○	○			○	
○		教育実習指導	実習を円滑に行うために必要な事柄を学習する。具体的には施設の全体的な枠組みを理解し、実習にのぞむ心構えを作るとともに実習日誌の書き方や表現の仕方などの知識と技術を身につけることを目的とする。	2前	15	1	○			○			○		

○		言語表現	保育者として知っておくべき絵本に接し、オリジナル絵本リストを作成する。 絵本を深く味わい、必要なタイミングで相手に届けられる実践力を養う。	2 後	15	1	○		○		○	
○		言葉Ⅱ	近い将来における保育者として、子どもや保護者の前に立つことを自覚して保育者に求められるコミュニケーション能力や文章力を養うために、基礎的な語彙力、読解力、表現力や会話力などを身に付ける。	2 後	15	1	○		○		○	
○		乳児保育Ⅱ	○保育士として必要な乳児保育の知識、技能、感性を獲得する。 ○乳児期の心身の発達特徴を理解する。 ○乳児に関わる多職種を知り、他の専門職との連携を学ぶ。	2 前	15	1	○		○		○	
○		保育実習指導Ⅰ(施設)	実習を円滑に行うために必要な事柄を学習する。具体的には、施設の全体的な枠組みを理解し、実習にのぞむ心構えを作るとともに実習日誌の書き方や表現の仕方などの知識と技術を身に付けることを目的とする。	2 前	15	1	○		○		○	
○		保育実習Ⅰ(施設)	保育実習②の施設実習は、その修得した科目全体の知識・技能を基盤とし、これらを統合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する直接的な働きかけを通じて、保育の理論と実践の関係について習熟することを目的としている。	2 前	90	2			○		○	○
○		卒業研究	これまでの学びを振り返り、卒業研究として学びを深めたい、研究したいことは何かを考える。また、意見交換や研究協議を重ね一つ一つのプロセスを大切にしながら、保育の基本姿勢を培う。	2 通	45	2			○	○		○
○		保育実習指導Ⅱ	保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深め、さらに、指導計画の作成や記録など保育の実践力を養うことを目的とする。	2 後	15	1	○		○			
○		保育実習Ⅱ	授業で学習してきた保育の理論や技術を基にして、実際に保育の現場に出て保育を経験することによって、それらが保育の実践と具体的にどのようなつながるかを体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を確立していくために行う。	2 後	90	2			○		○	○
合計					70	科目	2,055単位時間(103単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。